

ODIP アドミニストレータ 3.2.8 リリースノート

2015/12/04

(株) インテリジェント・モデル

- ODIP は、（株）インテリジェント・モデル社の登録商標です。
- 本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、（株）インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。
- 本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A.	機能追加・拡張	4
(1)	外部関数用ライブラリフォルダの追加	4
(2)	DROP TABLE PURGE の対応 (Oracle)	4
(3)	作成できる最大プロセス数の拡張	4
(4)	データ名称の最大桁数拡張	4
(5)	チェックアウト時のダイアログにロックされている定義の一覧を追加	4
B.	その他の変更と修正の履歴	5
(1)	属性未選択のキーユニットがあると実行時にエラーが発生する問題の修正	5
(2)	出力前導出演算の「出力キー属性」定義画面のコンテキストメニューに「削除」を追加	5
(3)	初期化処理で導出した属性が他の定義で参照されていても削除できる問題の修正	5
(4)	データセットのインポートでカラムが常に最後に追加される問題が修正されました	5
(5)	レンジ変換でのルール確定時の動作の改定	5
(6)	ユーザビューのレイアウト・主キーチェック内容の変更	5
(7)	Replace 関数の修正	6
(8)	リッチテキストファイルの出力内容の修正	6
(9)	属性登録ダイアログでエラーが発生する問題の修正	6

A. 機能追加・拡張

(1) 外部関数用ライブラリフォルダの追加

ODIP アドミニストレータのインストールフォルダに extlib フォルダが追加されました。

外部関数 (XFunc 関数) で利用する Java プログラムの jar ファイルを extlib フォルダに保存することで、ODIP アドミニストレータの起動時に自動的に CLASSPATH に追加されます。extlib フォルダの jar ファイルは、CLASSPATH 環境変数に指定されたクラスより優先的にロードされます。

(2) DROP TABLE PURGE の対応 (Oracle)

データソースの DBMS 名に「Oracle9i or later」が指定されているとき、ODIP が実行するテーブル削除の SQL 文が「DROP TABLE テーブル名 PURGE」に変更されました。これにより、Oracle10g から導入されたリサイクルビンには DROP したテーブルを入れず、対象のテーブルは完全に削除されます。

(3) 作成できる最大プロセス数の拡張

1つのプロジェクトで作成することのできるプロセスの上限が、999 プロセスから 999999 プロセスに拡張されました。過去のバージョンでは、1000 以上のプロセスが含まれるとトランスフォーマリポジトリの作成でエラーが発生していました。

(4) データ名称の最大桁数拡張

属性名、カテゴリ名、データセット名に指定できる最大桁数が 1000 バイトに拡張されました。過去のバージョンでは、属性名およびカテゴリ名が 75 バイト、データセット名が 200 バイトの制限がありました。

文字数はトランスフォーマリポジトリを作成するデータベースの文字コードに依存し、例えば、データベースの文字コードが Shift-JIS (日本語 2 バイト) の場合は日本語 500 文字、UTF-8 (日本語 3~4 バイト) の場合は日本語 250~333 文字になります。

(5) チェックアウト時のダイアログにロックされている定義の一覧を追加

リポジトリサーバから定義をチェックアウトしようとして対象の定義がロックされているときに、ロックされた定義の情報が一覧で表示されるように改定されました。一覧の各行は以下の形式で表示されます。

[ロックしているユーザ名][ロックの単位 (フォルダ、管理単位など)] [ロックされている定義の名称]

B. その他の変更と修正の履歴

(1) 属性未選択のキーユニットがあると実行時にエラーが発生する問題の修正

導出演算で、属性が一つも選択されていないキーユニットを計算単位、または集約単位に使用して「実行」すると、以下のエラーが発生していましたが、定義の検査でエラーとして検出されるように修正されました。

`jp.imkk.odip.transformer.repository.exception.RepositoryDataException`: 導出演算の計算単位又は集約単位[キーユニット名]に一致する単位が REPKB138 に見つかりません。

(2) 出力前導出演算の「出力キー属性」定義画面のコンテキストメニューに「削除」を追加

「追加・変更・削除」モードの管理単位の「出力前導出演算」画面上段の「出力キー属性」を定義する画面のコンテキストメニューに「削除」が追加されました。

(3) 初期化処理で導出した属性が他の定義で参照されていても削除できる問題の修正

導出演算の「初期化処理」で導出した属性が、ユーザビューなどの定義で参照されていて無効化や削除ができる問題が修正されました。

ただし通常の導出演算と同様、同じ初期化処理内で参照されている場合は無効化および削除可能です。

(4) データセットのインポートでカラムが常に最後に追加される問題が修正されました

ファイルメニューの[インポート]→[データ名称インポート]で CSV ファイルからデータセット定義をインポートするとき、新たに追加されたカラムが常に最後に追加される問題が修正されました。追加されたカラムの位置は CSV ファイル内の順序に従うようになります。

ただし、「存在する定義をインポートした内容に更新する」にチェックがついていない場合は従来どおりの動きになります。

(5) レンジ変換でのルール確定時の動作の改定

レンジ変換で最小値、最大値のどちらにも値を指定していた場合、定義確定後は値や演算子を引き継いで次の定義入力の補助を行うようになっていましたが、最小値、最大値何れかのみに値が指定されていた場合も同様に、値や演算子を引き継いで定義の補助を行うように改定されました。また、確定直後のカーソル位置も見直され、改定されました。

(6) ユーザビューのレイアウト・主キーチェック内容の変更

処理開始時に行われるレイアウト変換が必要かどうかの判断に、ユーザビューのロードタ

イプが「再作成」の場合のみ主キーのチェックを含めるように修正されました。これにより、JDBC ドライバから実テーブルの主キー情報が取得できない場合でも、レイアウト変換を行わずにデータの出力が可能になります。

レイアウトそのものに相違がある場合は、「再作成」以外であっても従来どおりレイアウトの変換を求められます。

(7) Replace 関数の修正

Replace 関数で”（ダブルクォート）を置換することのできない問題が修正されました。

(8) リッチテキストファイルの出力内容の修正

入力データのソートキー項目に修飾子を指定した同一テーブルの同一属性が指定されていると、リッチテキストファイルへ書き出された導出演算の計算単位・集約単位の内容が実際の定義と異なる場合がある問題が修正されました。

(9) 属性登録ダイアログでエラーが発生する問題の修正

属性を登録するダイアログで「データタイプ」を選択すると、エラーが発生する場合がある問題が修正されました。

以 上